

# 令和5年度版「学力向上ポートフォリオ(学校版)」【和土小学校】

⑥ 次年度への課題と改善策	
知識・技能	個人差が大きいことから、個別に必要な支援を講じていく必要がある。個別に蓄積されたデータを効果的に生かしながら、知識・技能の定着を図れるよう努める。 また、次年度の学力向上目標としては、全体的に文章を読み取る能力について課題がみられるので、「言葉の特徴や使い方に関する事項」を全学年で重点的に取り組みたい。語彙数を増やし言葉の意味を理解し、自分の考えを自由に表現できるよう全学年で取り組みたい。また、読書活動を充実させる。
思考・判断・表現	国語の集めた情報の関連付け、算数の数量喚起と図の関連付けなど、特徴を読み取ることに課題がみられた。教科横断的視点として、グラフ等の資料を用いる際、「どのような視点で」「どのような単位で」などを意図的に問い、資料の見方を高めていく。また、各教科の授業で、根拠資料をもとに、自己の考えをまとめる活動も取り入れていきたい。 更に、課題をつかむ(読み取る)能力を高めることで、思考・判断・表現の能力を高めていきたい。
主体的に学習に取り組む態度	5、6年生の質問事項「学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていますか」において、肯定的な回答の割合が87%以上、4～6年生の質問事項「これまで学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」においても、肯定的な回答の割合が87%以上であったので、このことは維持しながら、話し合い活動や学習の振り返りを行うことにより、考えを深めたり広げたりする活動を充実させる。さらに、ICTを活用した振り返りの実施や記録の蓄積を図り、主体的に学習に取り組む態度を育てていきたい。

① 目標・策		
	目標	策
知識・技能	R4年度全国学力・学習状況調査、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「知識・技能」において1pt向上させる。	⇒ ・タブレット等を活用した漢字や計算等の反復学習 ・授業や朝学習における「言葉の特徴や使い方に関する事項」についての反復学習と生活の場面で実際に使う機会の設定 ・算数授業T・Tの全学年による実施
思考・判断・表現	R4年度全国学力・学習状況調査、R4年度さいたま市学習状況調査の自校結果より国語・算数の「思考・判断・表現」において1pt向上させる。	⇒ ・授業における課題解決の見直しをもつ場面の設定 ・「さいたま市『アクティブラーニング』型授業」の推進 ・タブレットを活用した協力的な学びの場の設定 ・各教科の授業において根拠資料を基に自己の考えをまとめる活動の設定
主体的に学習に取り組む態度	R4年度さいたま市学習状況調査「家で計画を立てて勉強をしていますか。」の質問項目において、肯定的な回答が6割を超える程度であった。R5年度は、肯定的な回答の割合を7割にする。	⇒ ・個々に応じた学習支援 ・授業のめあての明確化と児童が授業の「振り返り」ができる時間の設定 ・児童に学習の見直しをもたせ自力解決をする場の設定 ・「和土小家庭学習の目標」の配付による家庭学習の継続と充実

<小6・中3>(4月～5月)

⑤ 目標・策の達成状況		評価(※)
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の「知識・技能」において、R4年度自校平均と比較し、国語-4.3pt、算数+0.5ptであった。国語は自校平均を下回ったが、算数は自校平均を上回った。R5年度さいたま市学習状況調査国語「知識・技能」において、R4年度自校平均正答率と比較し、小3-4.5pt、小4-4.0pt、小5-15.9pt、小6+4.5ptであった。	C
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の「思考・判断・表現」において、R4年度自校平均と比較し、国語+3.3pt、算数+11.0ptであった。国語、算数ともに自校平均を上回った。R5年度さいたま市学習状況調査国語「思考・判断・表現」において、R4年度自校平均正答率と比較し、小3-6.5pt、小4+17.8pt、小5-0.5pt、小6+9.5ptであった。	B
主体的に学習に取り組む態度	R5年度さいたま市学習状況調査質問項目「授業中、分からないことがあったとき、先生に聞くことができますか」において、全ての学年で肯定的な回答の割合が市の平均を上回った。「授業で学んだことを、ほかの学習で生かしていますか」において肯定的な回答の割合が、小3、小4、小6で95%以上で市の平均を上回った。(小587.0%)また、「ICTを活用した学び」の項目においては、肯定的な回答の割合が、ほとんどの項目において市の平均を上回った。	B

※評価 A 8割以上(達成) B 6割以上(概ね達成) C 6割未満(あと一步)

② 全国学力・学習状況調査結果・分析	
知識・技能	R5年度全国学力・学習状況調査の結果をR4年度の自校結果と比較すると、国語+4pt、算数+1ptであった。また、全国の結果と比較すると、国語の「原因と結果など情報と情報との関係について理解しているか」をみる問題、算数の「図形の意味や性質について理解しているかどうか」をみる問題に課題が見られた。今後、読書活動の一層の推進や言葉の意味を調べたり、使い方を考えたりする学習により文章の読解力を向上させる。
思考・判断・表現	R5年度全国学力・学習状況調査の結果をR4年度の自校結果と比較すると、国語+3pt、算数+11ptであった。また、全国の結果と比較すると、国語の「目的を意識して、中心となる語や文を見つけて要約することができるかどうか」をみる問題、算数の「図を基に商の意味を考えることができるかどうか」をみる問題にや課題が見られた。今後、各教科において資料を基に自己の考えをまとめる活動を意図的に授業に取り入れる。
主体的に学習に取り組む態度	R5年度全国学力・学習状況調査における「家で計画を立てて勉強をしていますか」の質問項目では、肯定的な回答が87%であった。また、「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか」の項目では、88%が肯定的な回答であった。今後、宿題の出し方や計画的に学習できるよう締切日を設定するなどの工夫を行いながら、一層、児童の主体の学びとなるよう授業改善に努める。

- ①結果分析(管理職・学年主任等)
- ②詳細分析(学年・教科担当)

④ さいたま市学習状況調査結果・分析 ※令和5年度のさいたま市学習状況調査結果は参考地扱いとなります。			
小3	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、自校同学年比較して、R4年度調査より国語+0.9pt、算数-3.1ptであった。国語の主語と述語を捉える問題に課題がみられる。算数では数量の関係を表した図と式を関連付けて読み取ることに課題がみられる。学びに向かう力等については、肯定的な割合が、国語は市平均より上回ったが、算数は市平均を下回った。	小4	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、自校同学年比較して、R4年度調査より国語+4.4pt、算数+1.1ptであった。国語の主語と述語を捉える問題に課題がみられる。算数では整数倍にあたる二つの数量関係の場面と図を関連付けることに課題がみられる。学びに向かう力等については、肯定的な割合が、国語は市平均より上回ったが、算数は市平均を下回った。
小5	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、自校同学年比較して、R4年度調査より国語-16.9pt、算数-9.4ptであった。国語の主語と述語を捉える問題に課題がみられる。算数では総合グラフから特徴を読み取ることに課題がみられる。学びに向かう力等については、肯定的な割合が、国語、算数ともに市平均を下回った。	小6	R5年度さいたま市学習状況調査「知識・技能」において、自校同学年比較して、R4年度調査より国語+6.9pt、算数+3.6ptであった。国語の書くために集めた材料を関連付け、伝えたいことを明確にすることに課題がみられる。算数では示された場面において、目的にあった数の処理の仕方を考察することに課題がみられる。学びに向かう力等については、肯定的な割合が、国語は市平均より上回ったが、算数は市平均を下回った。

③ 中間期見直し(全国学力・学習状況調査結果分析後)		
	目標	策
知識・技能	変更なし	⇒ 年度当初の策に加え、 ・文(文章)の内容理解のための読書活動の充実
思考・判断・表現	変更なし	⇒ 変更なし
主体的に学習に取り組む態度	変更なし	⇒ 変更なし